



報道関係各位

2014(平成26)年 3月10日

新たな歴史スポット 村上家資料館 開館！

～貴重な古文書から隠岐を知る～

海士土着の豪族「村上家」に残る貴重な史料の一部を展示する「村上家資料館」がこのたび完成し、**3月12日(水)に竣工式**を行います。現在の村上家当主から古文書等が海士町へ寄贈されたことを受け、平成21年から25年にかけて町の事業として建造物と庭園の改修・整備を行ったもので、資料館についての総合監修及び古文書の整理・調査については、京都造形芸術大学に依頼しました。

村上家とは、中世以降隠岐島前で勢力をもった豪族で、後鳥羽上皇の身の回りの世話を担ったという由緒が伝えられている名家です。江戸前期、海士へ配流されてきた飛鳥井少将雅賢(まさかた)から当時の当主が「村上助九郎(すけくろう)」と命名され、それ以来当主は代々「助九郎」を名乗ります。

村上家資料館の最大の見どころは、古文書です。宝治2年(1248年)のものを最古とする中世文書や200点を超える江戸前期の文書など、1600点以上の古文書が残されており、それらは海士や隠岐の歴史、隠岐と本土との交流の実態を今に伝える貴重なものです。資料館ではその一部を見ることができ、京都の公家や商人との交流の記録や、「天野助九郎」(＝海士村の助九郎)という名前が載っている江戸時代の長者番付(金持ちランキング)など、興味深い展示が目白押しです。

徒歩圏内に隠岐神社や後鳥羽院資料館、後鳥羽上皇御火葬塚もあり、歴史のエッセンスが凝縮された散策エリアとして観光客からの注目度も高まると期待されます。本件につきまして、ご取材いただければ幸いです。竣工式当日のプログラムは下記の通りです。



明治期の母屋を改修した村上家資料館



館内の様子。手前の展示物は、村上家と京都の水無瀬家がやり取りした手紙を書き写したものの帳面と、その手紙を送るときに入れていた文箱。

竣工式次第(3/12(水) 10:00～11:30予定)

- 一、開式の辞 (副町長 澤田恭一)
- 一、神事
- 一、式辞 (町長 山内道雄)
- 一、工事経過報告 (環境整備課長 松前一孝)
- 一、感謝状贈呈
- 一、閉式の辞 (副町長 澤田恭一)

《閉式後の展示説明》

京都造形芸術大学歴史遺産学科教授／栗本 徳子氏
京都学園人間文化学部准教授／鍛冶 宏介氏

《資料館概要》

- 所在地 海士町大字海士1700-2
- 開館時間 9:00～17:00 (12月～2月末は休館)
- 入館料 300円(個人)
- ※開館は3月21日(金)の予定です

《問合せ窓口》

・村上家整備事業に関しては
⇒海士町環境整備課【TEL】08514-2-1825

・村上家資料館については
⇒海士町教育委員会【TEL】08514-2-1222